

# 平成 18 年度附属図書館活動報告書

東京大学附属図書館

## はじめに

附属図書館は、東京大学における学習・教育・研究活動のために不可欠な全学組織として設置され、学術情報基盤としての役割を担うとともに、わが国における「学知」の蒐集・保存・発信の中心のひとつとして全国の学術情報基盤の充実に貢献し、更に国際的な学術情報交流を行うことを基本理念としている。

平成 18 年度は、東京大学の中期目標・中期計画に基づきながら、学習・教育・研究活動のための学術情報基盤の整備に向けた様々な事業を実施した。とりわけ、柏図書館の自動書庫増設を背景とする e-DDS( 電子的文献デリバリーシステム )の全学的なサービス拡大、学術機関リポジトリ ( UT Repository ) の公開と学内への協力呼びかけ、全学共通経費の導入と全学購入システムによる効率的な予算執行に向けた取り組みは特筆すべきものであり、これらの事業展開を通じて全学組織としての附属図書館の位置付けが一層鮮明になってきている。

その他の諸活動も含め、ここに一年間の事業成果を取りまとめて整理したので、皆様の忌憚のないご批判、ご意見を頂戴し、東京大学附属図書館の今後の発展の糧とできれば、幸甚の至りである。

これらの成果は、図書館員の日々の奮闘の結果ではあるが、関係各方面のご理解とご支援があってはじめて実現できたものであることは言うまでもない。図書館の活動に対して、引き続きご理解とご支援を賜りたくお願いする次第である。

平成 19 年 7 月 28 日

東京大学附属図書館長

西 郷 和 彦

## 目 次

### 1. 平成 18 年度の特記事項

- 1.1 柏図書館自動化書庫の増設工事完了と e-DDS
- 1.2 学術機関リポジトリ ( UT Repository ) の公開
- 1.3 全学共通経費と全学購入システム

### 2 閲覧貸出サービス

- 2.1 通常開館期間の拡大とカウンターサービス時間の延長 ( 総合図書館 )
- 2.2 「東京大学卒業生カード」による図書館利用を開始
- 2.3 視聴覚資料利用サービス開始 ( 柏図書館 )
- 2.4 メールによる書庫資料マニュアル貸出の延長 ( 総合図書館 )
- 2.5 資料の配架見直しとオンライン目録 ( OPAC ) の表示改善 ( 総合図書館 )
- 2.6 利用者用検索パソコンの環境整備 ( 総合図書館 )
- 2.7 日韓 ILL/DD プロジェクト・テストの参加

### 3 ガイダンス、広報

- 3.1 情報リテラシー講習会の開催と遠隔会議システムによる中継 ( 柏図書館 )
- 3.2 柏図書館利用ガイダンス ( 柏図書館 )
- 3.3 留学生向けサービスの拡大
- 3.4 展示会及び講演会の実施
- 3.5 オープンキャンパス 2006 への参画
- 3.6 柏キャンパス一般公開と柏図書館企画展示
- 3.7 EDC セミナー、EU 公開講演会、EU i 講習会の開催

### 4 情報システム

- 4.1 ホームページのリニューアル
- 4.2 MyLibrary サービスの開始
- 4.3 ASK サービスの拡大・本稼動

### 5 資料の整理

- 5.1 第二期全学選及入力計画 ( 10 年次計画の 2 年次 )
- 5.2 鷗外文庫のデジタル化

## 6 資料の収集

- 6.1 図書資料の購入実績
- 6.2 選書方法の多様化
- 6.3 朝鮮王朝実録のソウル大学校への引渡
- 6.4 日本資料再利用計画の試行実験

## 7 施設の整備

- 7.1 資料保全環境の調査と改善
- 7.2 貴重図書室の整備と平賀文書の保管（柏図書館）
- 7.3 館内利用環境の保全、安全性の向上（総合図書館）
- 7.4 入館ゲート周辺の点字タイル張替（柏図書館）
- 7.5 閲覧室の環境整備（総合図書館）

## 8 スタッフ

- 8.1 職員研修プログラム
- 8.2 海外派遣
- 8.3 外国人研究員の受入
- 8.4 ジュニアT Aの活用

付録 A-1 平成 18 年度図書館活動日誌

付録 A-2 平成 18 年度附属図書館会議開催一覧

## 1. 平成 18 年度の特記事項

### 1.1 柏図書館自動化書庫の増設工事完了と e-DDS

#### (1) 自動化書庫の増設工事完了と雑誌移管の受入

柏図書館は全学の自然科学系学術雑誌のバックナンバーセンター機能を担っており、各部局から移管された雑誌は自動化書庫に収納され、e-DDS サービスの基盤となっている。平成 16 年度までに第 1 期工事が終了し、50 万冊相当（1 冊 2.5 cm 換算）収容可能な書庫が完成していたが、平成 18 年度は学内措置により第 2 期分の工事が認められ、3 月 29 日に完了した。これで自動化書庫の収容能力は 100 万冊相当となった。

今年度は、総合図書館、工学部、理学部、大学院情報理工学研究科、医科学研究所、物性研究所から自然科学系学術雑誌のバックナンバー約 2.9 万冊が移管され、合計約 22 万冊が収納された。



#### 【今後の課題】

移管済の雑誌と新規移管雑誌の調整（重複調整、包括所蔵レコード作成など）レジャーナルを移管するための新規書誌作成が大きな負担となってきた。年度当初に作業スケジュールを定め、効率的な重複調整や準備作業ができるようにすること。また一連の作業を解説したマニュアルを作成することなど、移管元部局が容易に準備できる体制を整備する必要がある。



自動化書庫出納ステーション

## (2) e-DDS サービスの拡大

e-DDS サービスとは文献の電子的配送サービスである。学内の利用者は研究室等から必要な文献を web 上で申し込み、閲覧することができる。

これは柏図書館で平成 17 年 3 月から受付を開始したサービスであるが、柏図書館では自動化書庫に集約した自然科学系学術雑誌のバックナンバーから利用者の申込に応じて複写生成した PDF を配信しているため、サービス受付時間内であれば申込からほぼ 1 時間以内に URL がメールで利用者に通知され、それをたどることで直ちに必要な文献を読むことができる。

平成 18 年度は、柏図書館に続き 4 月 4 日に総合図書館がサービスを開始(ただしこの時点では駒場と柏キャンパスからの申込受付のみに限定。本郷キャンパス内からも総合図書館へ申し込めるようになったのは、11 月 1 日から)、10 月 1 日には駒場図書館でも受付を開始したため、全学から総合・駒場・柏の 3 図書館に申込ができるようになった。

また「図書館の窓」において二度の e-DDS 特集を組むなど広報にも務めた結果、利用件数も増えてきている。

## 1.2 学術機関リポジトリ (UT Repository) の公開

### (1) UT Repository の公開と構築

東京大学学術機関リポジトリ (UT Repository) とは、東京大学で生産されたさまざまな研究成果を電子的な形態で集中的に蓄積・保存し、学内外に公開することを目的としたインターネット上の発信拠点である。平成 16 年度から情報基盤センターと連携し学術機関リポジトリの構築を行い、平成 18 年 4 月 1 日から「東京大学学術機関リポジトリ (UT Repository)」としてサービス公開を開始した。

( <http://repository.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/> )

### (2) 学内広報

学内の研究者に向けた説明資料と著作権ガイドを 1 つにしたパンフレット「知っていますか? UT Repository」等を作成し、学内全図書館・室へ必要部数を配付すると共に、学内教員への直接的な紹介・説明のため、附属図書館長が各部局の教授会へ赴き、UT Repository



のプレゼンテーションを行った。

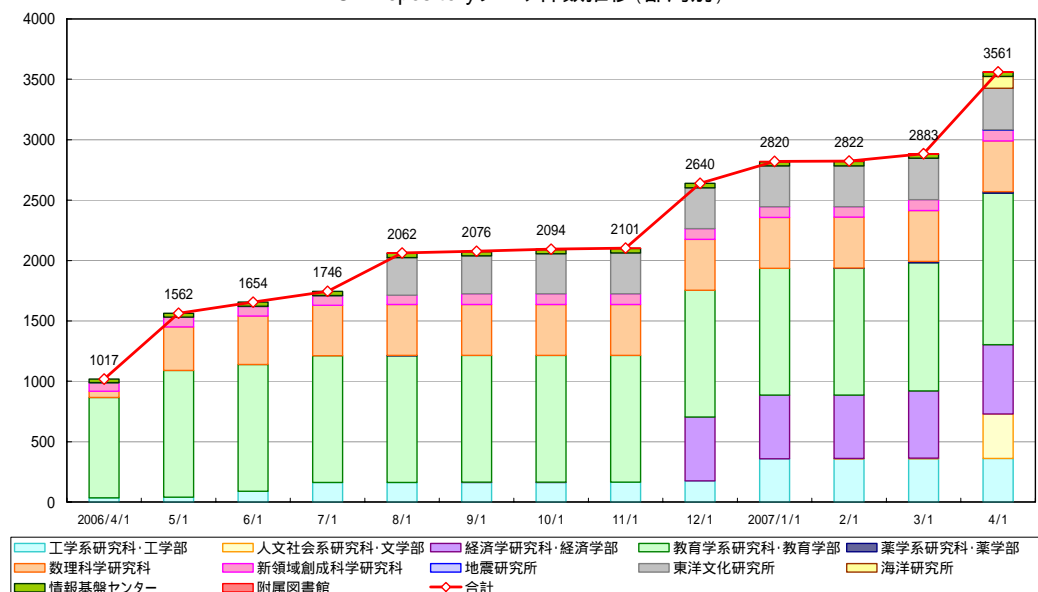
UT Repository の部局教授会でのプレゼンテーション

部局	月日	参加者数	資料配布部数
文学部・人文社会系研究科	10/18	100	100
情報理工系研究科	11/2	30	30
先端科学技術研究センター	11/8	70	70
工学部・工学系研究科	11/9	75	75
理学部・理学系研究科	11/15	90	90
海洋研究所	12/20	30	100
生産技術研究所	12/20	60	100
宇宙線研究所	1/17	20	35
物性研究所	1/18	40	60
農学部・農学生命科学研究科	1/25	150	200

また、図書館広報誌「図書館の窓」(2006.10)で特集記事を、情報基盤センター広報誌「Digital Life Vol.8」に紹介記事を、学内広報誌「学内広報」No.1354(2007.3.14)に特集記事を掲載し、学内広報の拡大を図った。

これらの努力により、平成 18 年度は、紀要、学位論文、学術雑誌論文を中心としてコンテンツの収集と作成を行い、3 月末には 3,561 件のデータを公開することができた。

UT Repositoryデータ件数推移(部局別)



### 【今後の課題】

機関リポジトリでは本文そのものを PDF 等で公開するため著作権の許諾処理が必須であるが、学術雑誌掲載論文では著者本人や共著者の許諾以外に出版者の許諾も必要であるため、機関リポジトリへの掲載許諾情報を調査し、必要に応じて学協会等へ個々に許諾の確認を取る作業を行っている。しかし学協会側の対応は様々であり、一筋縄ではいかない部分が多々残されている。

また平成 18 年度は、紀要及び COE リサーチアシスタント報告書等のバックナンバーの電子化にあたり、著者への許諾を電子メールと郵送により実施した。今後も引き続き学内研究者及び各部局への広報活動を継続すると共に、現在中心となっている紀要、学位論文の他、学術雑誌掲載論文、科学研究費研究成果報告書、ディスカッションペーパー、COE 報告書等さまざまな研究成果の収集の強化を行うため、許諾事務も多様化への対応が求められている。

## 1.3 全学共通経費と全学購入システム

### (1) 全学共通経費による基盤的学術雑誌等の整備へ向けた取り組み

東京大学アクションプラン（「研究 - 1 自立的・自発的研究の支援 - 基盤的学術図書の安定的確保」）及び附属図書館プラン（「1. 基盤的学術情報の安定的確保」）に掲げられているように、本学において研究成果を生み出す源泉ともいえる雑誌、電子ジャーナル等の学術研究情報基盤を整備し、安定的に維持することを目的として、購入財源の共通経費化について大学レベルで検討が行われた。その結果、平成 19 年度から全学共通経費（平成 19 年度 11.5 億）による基盤的学術雑誌等の整備を実施することとなり、これに基づき、図書行政商議会において「全学共通経費による基盤的学術雑誌等整備の基本方針」等が策定された。

これに伴い、全学共通経費で整備する対象となる学術雑誌（国内雑誌・外国雑誌）、電子ジャーナル及び各種オンライン・データベースについて、学内調整、納入業者の確認等の契約準備作業を行った。

### 【今後の課題】

現在の電子的資源の価格モデルは持続可能なものではないため、本学が必要とする学術情報の安定的確保と供給に向けて、電子的資源の購入方式を検討改善していく必要がある。

### (2) 全学購入システムの運用拡大

協同購入システムである全学購入システム（全学資料購入集中処理システム）は平成 16 年 6 月より暫定運用を開始し、同年 12 月より本格運用を実施している。平成 18 年度には、参加部局、購入実績額、差額の項目で順調に増加し、「国立大学法人東京大学年度計画」に謳われているように、着実な実施を行った。平成 19 年 3 月現在での進捗状況は以下のとおりである。



#### 参加部局（22部局）

図書館（総合図書館、柏図書館）、法学部、公共政策、医学部、工学部、文学部、理学部、農学部、経済学部、教養学部（駒場図書館、自然科学図書室、アメリカ太平洋研究センター）、教育、新領域、情報理工、医科研、地震研、東文研、社研、生研、宇宙線研、物性研、海洋研、先端研

#### 参加書店（22書店）

アカデミア洋書、インフォトレダ、紀伊国屋書店、極東書店、ゲーテ書房、国際書房、三省堂書店、ジュンク堂書店、全官報、東大生協、図書館流通センター、内外図書、ニュートリノ、光洋書、ブックマン、丸善、緑書房、雄松堂書店、友隣社、ユサコ、ユニブック、Blackwell

#### 平成18年度購入実績等

システムを利用し34,800冊（246,000千円）の図書を購入し、9,860千円の図書購入費を節約することができた。

\*冊数で44%UP、購入金額で37%UP（対17年度比）

#### 【今後の課題】

一部参加の部局の取扱高を増加させること、研究室で購入する消耗品図書の購入も積極的に取扱うこと、クレジットカードなど多様な支払い方法に対応することなどが今後の課題として残されている。

## 2 閲覧貸出サービス

### 2.1 通常開館期間の拡大とカウンターサービス時間の延長（総合図書館）

#### (1) 短縮開館日の見直し

これまで、夏季（7月21日～8月31日）、冬季（12月21日～1月10日）にあった短縮開館日を削減し、8月1日～31日のみを短縮開館日とした。

通常開館日（平日）：8：30～22：30

短縮開館日（平日）：8：30～19：00

#### (2) サービス時間延長

カウンターのサービス終了時間を延長した。

通常開館日（平日） 19：45→20：00

短縮開館日（平日） 16：45→17：00

以上により実際のサービス時間の延長と、カウンター終了時刻をわかりやすくすることができた。

### 2.2 「東京大学卒業生カード」による図書館利用を開始

「東京大学卒業生カード」による図書館の利用を開始した。これは、東京大学卒業生室発行のクレジットカード付きICカードに附属図書館入館証の機能を付与したものである。これまで、卒業証明書の発行を受けた上で図書館に足を運んで、入館証作成の手続きをとらなくてはならなかった卒業生が、郵送による申込みができるようになった。

また利用者ファイルへの登録作業は、情報基盤センター図書館情報系の協力により、定期的な一括登録として行い、閲覧カウンターでの職員、卒業生双方の省力化となっている。有効期限の更新手続きも、クレジットカード会社により自動で行われるので、利用者へ手続きの手間をかけることはない。

#### 【今後の課題】

現在、この一括登録の作業には、利用者ファイル内データの調整作業が必要であり、さらに効率的なデータ登録とその管理方法の確立が、今後の課題である。

### 2.3 視聴覚資料利用サービス開始（柏図書館）

柏図書館利用者へ多様なサービスを展開するため、12月4日より2階閲覧室のAVコーナーを整備し、紀行・名画・名曲・オペラ・歌舞伎・映画等のDVDなど視聴覚資料152タイトル182点の視聴及び貸出サービスを開始した。サービス開始に合わせて、図書館資料利用細則の改正を行い、視聴覚資料の貸出点数・期間等を定めた。

3月末までの利用状況は館内視聴52件、貸出489件と盛況であり、さらなる利用を開拓するため年度末に学生用図書費で110タイトル152点の視聴覚資料を追加購入し、充実を図った。また館内視聴用ヘッドホンを買替え快適な視聴環境を整えた。

## 2.4 メールによる書庫資料マニュアル貸出の延長（総合図書館）

書庫資料のうち、マニュアルで貸出を行ったものについて、メールによる貸出延長受付を開始した。従来、資料を書庫カウンターに持参しないと貸出延長の手続きを認めていなかったが、新図書館システム導入後、システムで貸出した資料は Web で利用者本人が延長できるようになったことと合わせ、メールによる申し出に対応することにしたものである。これにより、開架資料、書庫のシステム貸出資料と同様、製本雑誌等未登録資料も、来館せずに貸出延長の手続きをすることが可能になった。

## 2.5 資料の配架見直しとオンライン目録（OPAC）の表示改善（総合図書館）

開架資料の配架等の見直しを行い、利用者にとって、使いやすくわかりやすい資料の配置をめざした。

大学紀要は、言語によって和洋別の場所に配架していたものを、大学単位でまとめて配架するようにした。

大型本等、通常の書架から別置してある資料について、配架場所を OPAC の利用者コメントに反映させ、OPAC 検索のみで資料の配架場所がわかるようにした。この作業は現在も継続中である。

開架書架狭隘部分の図書の移動を、3 階 4 階ともにひととおり終了させた。今後の増加分の配架場所については、総合図書館全体での検討を進める予定である。

## 2.6 利用者用検索パソコンの環境整備（総合図書館）

総合図書館内の OPAC 用パソコンは、東京大学 OPAC・NACSIS Webcat・FELIX・東京大学学位論文データベース・BOOK CONTENTS 等にアクセス先を限定していたが、図書館システム更新を機会に、国立国会図書館 OPAC・Webcat Plus 等の学外オンライン目録、ASK・MyLibrary 等の新サービス、学内各図書館・室のホームページを利用可能にし、サービスの向上を図った。

また、OPAC 用パソコンに中国語・韓国語をはじめとする多言語入力環境を整備し、各国語の資料検索の便を図ると共に、情報検索用パソコンについても同様に多言語入力環境を整備し、留学生等への情報サービス環境を改善した。

## 2.7 日韓 ILL/DD プロジェクト・テストの参加

平成 19 年 1 月 15 日～26 日に、NII テストシステムを使用して総合図書館とソウル大図書館間で ILL/DD テストを実施した。これは日本側の NACSIS-ILL と韓国側の KERIS-ILL のシステムを接続して行ったもので、無事終了した。

テストの参加館は以下のとおり

日本側：東大，東工大，九大、韓国側：Seoul Univ.，Inha Univ.，Yonsei Univ.

### 3 ガイダンス、広報

#### 3.1 情報リテラシー講習会の開催と遠隔会議システムによる中継（柏図書館）

3月14日にメディアホールで「EndNote 入門セミナー」を行ったところ、27名の参加があった。

また、柏地区の教職員・学生へ利便性を図るため、初めての試みとして、平成17年度に整備されたメディアホールの遠隔会議システムを用いて、本郷地区で行われた情報基盤センターによる説明会・講習会等（10月25日に「コンピュータネットワーク利用セミナー」、2月8日に「Web of Science 新機能説明会」、3月27日に「EndNote 入門セミナー」）が中継され、参加者から好評を博した。

#### 3.2 柏図書館利用ガイダンス（柏図書館）

柏キャンパスに新しく進学・勤務する利用者を対象に、4月10日～21日の平日に午前午後1回ずつ30分程度の柏図書館利用ガイダンスを開催した。館内ツアー、図書館の使い方、文献の取り寄せ方法、図書館施設の紹介、OPAC（オンライン目録）や電子ジャーナルの簡単な紹介など、図書館利用の基本的な内容である。合計46人の参加があり、終了後早速利用登録をしていく参加者が多かった。

#### 3.3 留学生向けサービスの拡大

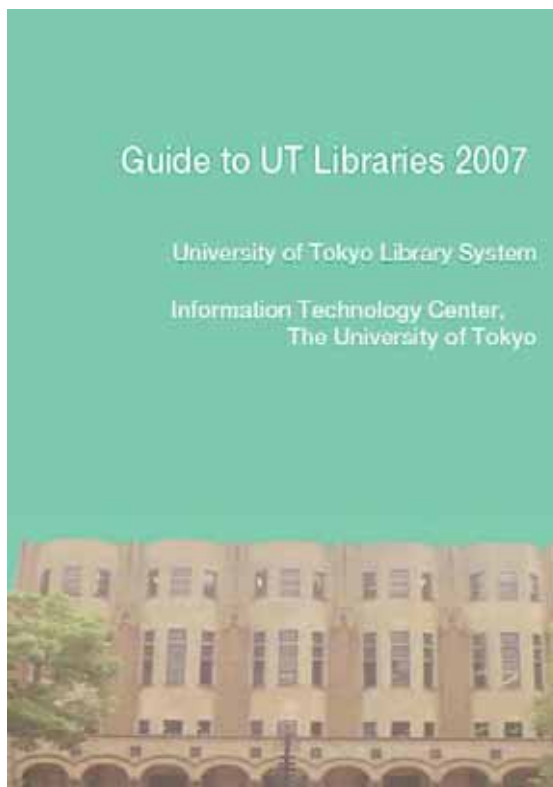
##### (1) 図書館利用ガイドの配布

留学生等へのサービスのため、附属図書館の各種サービスやインターネットリソースの活用方法について、カラー図版を多用して親しみやすく説明した英文ガイド「Guide to UT Libraries 2006」（62p；B5判）を新規作成し、配布した。

このガイドは、図書館職員の英語表現の拠り所としても活用され、留学生向けサービスの向上につながっている。

##### (2) 留学生向け等ガイダンスの実施

研究科の留学生オリエンテーションが実施される部局と連携し、日本語または英語によりガイダンスを実施した。春季は文・農、秋季は法・工・文・理・育から多数の留学生の参加を得られた。自由参加の回と合わせ、春季は4回・32名、秋季は6回・62名の参



加となった。内容は、図書館利用案内及びデータベース講習会（情報基盤センター図書館電子化部門による）であり、図書館サービスへの入口として好評である。

### 3.4 展示会及び講演会の実施

本学の平成 18 年度計画においても、地域社会等との連携・協力、社会サービス等として、図書館等で充実した展示・公開、講演会等を行うとあり、今年度も附属図書館の所蔵する資料を広く学内外に公開し、利用を促進するとともに新しい知見を披露する場として、総合図書館 3 階ロビーを会場に常設展示と特別展示を開催した。これらの展示会の企画・実施については、全学の図書系職員からなる図書館所蔵資料展示委員会が、関係教員の助言を得ながら行っている。展示会の内容は、情報基盤センター図書館電子化部門の協力を得て、電子展示として Web 上でも公開している。

( <http://www.lib.u-tokyo.ac.jp/koho/tenjikai/index.html> )

#### 平成 18 年度展示会・講演会

会場	期 間	種 別	タイトル	展示点数
総合図書館	18 年 5 ~ 6 月	常設展示(1)	草創期の東京大学と欧州の教師たち	44 点
	18 年 7 ~ 9 月	常設展示(2)	東京大学とお雇い外国人	30 点
	18 年 11 月 1 日 ~ 30 日	特別展示	知の職人たち - 南葵文庫に見る江戸のモノづくり -	73 点
	18 年 11 月 7 日	記念講演会	吉宗と東大 - 南葵文庫に見る知の職人たち - 講師：佐藤賢一・電気通信大学助教授	
	19 年 3 月 ~	常設展示(3)	(新制)東京大学総長著作展(1) - 南原総長から向坊総長まで -	33 点

#### (1) 常設展示

常設展示は、総合図書館所蔵資料で構成する小規模な展示として、平成 18 年度は 3 回開催した。最初の 2 回は、東京大学のお雇い外国人を取り上げた。第 1 回は、5 月に総合図書館で EDC セミナーが開催されたこともあり、EU 関連コーナーを併設した。第 2 回は、8 月のオープンキャンパスで来館する高校生の興味も引くようにということから、教科書に出てくる著名人の蔵書を展示した。第 3 回は、東京大学 130 周年にちなみ、新制大学になってからの歴代総長の著作を取り上げ、19 年度も引き続き実施中である。

## (2) 特別展示と記念講演会

特別展示は、広く一般市民にも公開する大規模な展示会として、11月のホームカミングデーを含む、1ヶ月間で開催した。

実施にあたっては、科学研究費補助金による南葵文庫の調査結果を踏まえた、佐藤賢一・電気通信大学助教授（当時）の指導を得た。総合図書館の所蔵する南葵文庫（旧紀州徳川家より寄贈）の大部かつ重層的な資料群から、従来取り上げられることの少なかった近世科学技術史分野、特に具体的な「モノづくり」に焦点を当て、紀州徳川家から江戸幕府8代将軍となった徳川吉宗をキーパーソンとしてその関連資料を中心に選別し、展示を構成した。

また、特別展示に合わせて11月7日に佐藤助教授を講師に招いて記念講演会を開催した。135名の参加があり、講演後の講師自身による展示説明も大変好評であった。

展示会全体では、30日間で学外からの見学者が約2,100名であった。



特別展示会場風景



記念講演会

## 3.5 オープンキャンパス2006への参画

オープンキャンパスは、全学実施要領により、本郷キャンパスは8月1日、駒場キャンパスは8月2日に実施された。

総合図書館は8月1日、本郷キャンパスの自由見学施設として参加した。昨年度と同じく閉館して実施し、参加者がより自由に見学できるように配慮した。参加者は昨年度の約2.5倍、2,775名の多数に上った。当日は高校生にも楽しめるように常設展示「東京大学とお雇い外国人」を開催した。なお、この展示は10月27～28日の柏キャンパス一般公開の際、柏図書館にも巡回し好評を得た。

駒場図書館は8月2日、通常通り開館し普段の図書館を身近に感じてもらう形で実施した。見学者数は767名。ジュニアTAによる館内案内ツアーを10分間隔で行い、学生と高校生との交流の場にもなった。

## 3.6 柏キャンパス一般公開と柏図書館企画展示

柏キャンパスでは地元の千葉県・柏市等の協力のもと、「地域・社会との連携・交流知的啓発」事業を行っているが、その一環として、10月27日～28日に柏キャンパスの一般公開（オープンキャンパス）が行われ、2日間で約4500名の入場者があった。

柏図書館への入館者は558名で、当日解放された2階閲覧室を見学した。またコミュニティサロンで企画展示「草創期の東京大学とお雇い外国人」を開催し、総合図書館所蔵資料等から8名の外国人教師の関連資料23点を展示したところ、多くの入館者が熱心に見入っている姿が見られた。

### 3.7 EDC セミナー、EU 公開講演会、EU i 講習会の開催

総合図書館では、20年ぶりの当番館として、平成18年6月1～2日の2日間、大会議室にて、EDC(EU資料センター / EU Documentation Center)セミナーをEUと共催した。2つの講演、各センターの研究発表、レファレンス事例研究等があり熱のこもったセミナーとなった。同時にEU公開講演会も開催し、多くの一般市民の参加(学外約60名を含む総数95名)と活発な質疑応答があり盛況であった。また、本セミナー協賛として、常設展示「草創期の東京大学と欧州から来た教師たち」も開催した。なお、EDCがEU i (EU情報センター / European Info)へと名称変更したことに伴い、当館も平成18年10月31日付けで協定書を取り交わし、EU iへと改称した。

また、EU主催によるEU i講習会(Training Session)が当館を会場として平成18年12月7～8日の2日間開催された。関東近県の大学から9名の参加者があり、EU iの提供する最新の情報サービスについて、概要説明を受けるとともに実習を行った。

## 4 情報システム

### 4.1 ホームページのリニューアル

平成7年10月に公開された東京大学附属図書館ホームページは、これまで附属図書館が提供する様々な情報を発信する場として活用されてきた。しかし、平成12年1月のデザイン変更から7年以上が経過し、また図書館のサービスや提供するコンテンツが増加したことなどから、ともしれば利用者にとって分かりにくく、アクセスしづらいページとなっていた。



そこで、旧来の附属図書館報編集委員会を改組するかたちで、平成18年7月に東京大学

附属図書館広報委員会を設置し、附属図書館の広報活動の一環としてホームページのリニューアルを検討することとなった。

リニューアルに当たっては、「すっきり 見やすく 分かりやすく」をモットーとし、「本や雑誌を探す」というような“目的”からアクセスできるメニュー表示、再訪しやすくなるデザイン・色調など、これまでのホームページを刷新することを念頭に置いた。

この方針に基づいて平成 18 年 12 月から広報委員会でさらに意見交換を行って仕様を固め、デザインと具体化は Web 制作会社に依頼し、平成 19 年 4 月 2 日(月)に新ホームページを公開した。

#### 【今後の課題】

今後は、今回のリニューアルにとどまらず、更に使いやすいホームページとなるよう改修を進める予定である。また、実際にこのホームページがどのくらい使われているのか、利用者の反応はどうかを冷静に見極めつつ、現実のサービスの現場と巧く繋がるような“情報発信の場”となるよう、改善していく予定である。

## 4.2 MyLibrary サービスの開始

附属図書館が提供する各種オンライン・サービスや Web 上の情報資源を利用者自身が整理・活用できるポータルサイト MyLibrary サービスを 9 月より開始した。10 月にはその英語画面もスタートしている。

Web リクエストサービスの導入により、来館せずに利用できるサービスが増えていたが、MyLibrary ではそれらのサービスを一度のログインで一元的に利用できることに加え、図書館からのお知らせ、お気に入りリンク集、新着図書アラート、統合検索(OPAC・NACSIS Webcat・国立国会図書館 OPAC・雑誌記事索引)などの新機能も利用できる。



3 月末までの総ログイン数は 18,885 回であり、月平均約 2,700 回の利用となる。

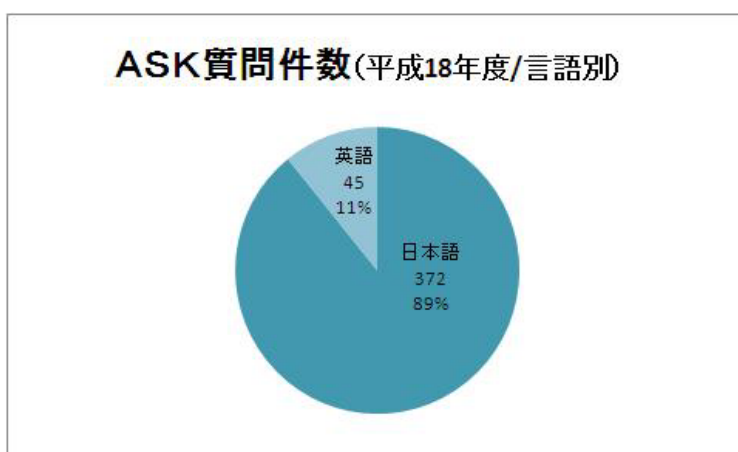
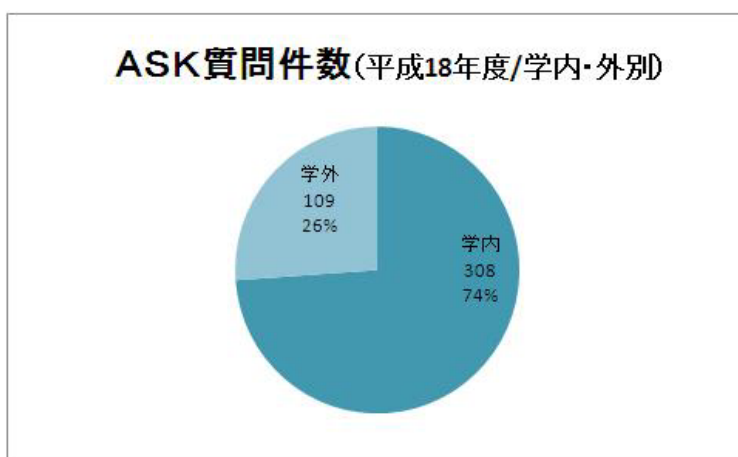
## 4.3 ASK サービスの拡大・本稼働



附属図書館のオンラインレファレンスサービス ASK は平成 17 年 3 月に試行を開始していたが、平成 18 年 3 月末の図書館システム更新に伴い、事例検索機能を向上させるとともに英語画面のサービスを開始した。また、併せて学外のパソコンからの利用を可能として利用者の便を図るとともに、学外者からも、「東京大学の図書館の所蔵資料や利用に関する質問」・「東京大学に関する質問」等、ASK レファレンスポリシーの範囲での質問を受け付けている。

ASK サービスは、試行サービス 1 年余を経て、8 月からは附属図書館の正式サービスとして位置づけられた。サービス参加館・室等も 38 に増加（平成 19 年 3 月末現在）する一方、利用者にとっての問い合わせ窓口一本化、海外からのレファレンス窓口の整備といったサービス面の効果も現れてきている。

平成 19 年度の質問数は 417 件（18 年度の 2.8 倍）に増加し、学外者の質問は 26%、英語による質問は 11%を占めている。



## 5 資料の整理

## 5.1 第二期全学遡及入力計画（10年次計画の2年次）

平成18年度は、一年次から継続入力中の5図書館・室に加え、新たに医・工・経の6図書館・室が加わり、合計約7万2500冊の入力を行った。これらのうち、医・工1号館A・理地球惑星科学の3図書館・室については遡及入力を終了した。その他の部局については、現在も進行中である。

なお、総合図書館については、約1万2000冊の入力が終了した。

## 5.2 鷗外文庫のデジタル化

平成17年度から3年計画で開始された「鷗外文庫」のデジタル化について、本年度も引き続き、平成18年度科学研究費補助金（研究成果公開促進費 課題番号：188017）の交付を得て事業を実施した。平成17年度末に公開した「鷗外文庫書入本画像データベース」は、18年度の1年間で約54,000件（画像表示回数）のアクセスを得た。また、本年度も情報基盤センター図書館電子化部門の協力を得て、貴重書を含む61タイトル（約4,500画像）を追加し、収録件数は161タイトル（和131、洋30）に増加した。目録情報については、和書約5,000冊、洋書約1,400冊の遡及入力を行った。特に洋書の遡及入力と書入調査がほぼ完了したことは特筆すべき成果である。これによって、鷗外文庫（洋書）の全貌が初めて明らかになり、鷗外研究の進展が期待できる。

## 6 資料の収集

### 6.1 図書資料の購入実績

#### (1) 図書購入実績

雑誌、電子ジャーナル費用が上昇したため、図書購入の総額は減少傾向にある。運営費交付金だけでなく、科学研究費補助金、寄付金、間接経費、補助金など購入財源も多様化している。

	H14	H15	H16	H17	H18
購入冊数	75,000	70,000	64,000	66,000	70,000
購入金額	665,000	666,000	573,000	526,000	520,000

単位千円

#### (2) 学習用図書の整備事業

大学を構成する教員、大学院生、学生の3つの視点から学習用図書を選定する計画を立て、一昨年、昨年に引き続き、総長裁量経費4,000万円の配当を受け、総合、駒場、柏図書館の学習用図書を大幅に整備充実することができた。

【今後の課題】

最新の図書を供給し続けるためには、学習用図書を整備するための恒常的な予算措置が必要である。

図書館名	H18		H16～H18 合計	
	冊数(冊)	金額(円)	冊数(冊)	金額(円)
総合図書館	3,502	14,291,785	7,901	30,754,475
駒場図書館	4,621	16,984,242	18,355	67,032,692
柏図書館	1,955	8,848,747	4,645	22,348,606
合 計	10,078	40,124,774	30,901	120,135,773

## 6.2 選書方法の多様化

柏図書館の蔵書の充実と利用促進を図るため、11月28日～12月15日の間、「オンデマンドブックス2006キャンペーン」を実施した。これは柏キャンパスに所属する教職員・学生を対象に、柏図書館に置いて欲しい本を推薦してもらうという主旨で行われたが、新領域創成科学研究科と物性研究所等所属の利用者から計151件の申し込みがあり、柏図書館所蔵済や雑誌を除く127件について購入した。

また昨年度に続き、新領域創成科学研究科がジュニアTAを募集し10名の大学院生が採用された。その活動内容は、12月～1月の2ヶ月のうち20時間で、柏図書館資料にふさわしい洋書・和書を自らの専門知識を生かして選書する作業するというもので、計2317冊が選定されたうち686冊を購入した。

この他にも日常的にWebリクエストサービスから購入希望を募り、利用者の要望を汲み上げる工夫をしている。

## 6.3 朝鮮王朝実録のソウル大学校への引渡

総合図書館所蔵の貴重書「朝鮮王朝実録(五台山本)」(47冊)に対する韓国民間団体からの返還要求を機会に、そのあり方について本学執行部及び研究者と検討し、実録の研究・保存の中心であるソウル大学校奎章閣韓国学研究院が所蔵する五台山本(27冊)と一体となるのが学術的見地から適当であるとの結論に至った。本学総長の提案に対するソウル大学校総長の受諾により、所蔵する「朝鮮王朝実録」47冊すべてを7月14日ソウル大学校に引渡した。

## 6.4 日本資料再利用計画の試行実験

「東京大学図書館憲章」では、東京大学附属図書館は、世界の学術機関との学術情報交流を行なうことにより、世界の学術コミュニティに奉仕するとうたわれている。

平成18年5月の国立大学図書館協会理事会において、日米学術情報交流事業の一環として、北米日本図書館資料調整協議会(NCC)と連携し、図書館に寄贈された重複資料を北

米の学術研究機関に提供する、日本資料再利用計画 (Japanese Resources Re-Use Plan) が提案され、まずは東京大学で試行実験 (Feasibility Plan) を実施することが了承された。これを受けて、附属図書館では、今回、総合図書館と柏図書館の重複資料を利用して試行実験を行うこととし、国立大学図書館協会 (JANUL) の英文ホームページに 2/4 ~ 2/22 の間、手順方法、コンセプトマップ、提供資料リスト (900 冊) を掲載した。また、NCC 議長 (Chair) からはメーリングリストにより、この実験の実施が北米の学術研究機関に通知された。

その結果、11 大学より応募があり、希望が重複した資料を NCC チェアが調整した結果、東京大学附属図書館が提供した書籍の 74% に当たる 673 冊が再利用されることとなった。

この実験結果から、日米大学図書館間の学術情報交流の進展、海外における日本研究への貢献等の効果が期待できる。

希望機関	総図	柏図	計
University of Virginia (UVA)	147	15	162
Vanderbilt University	56	0	56
Michigan State University (MiS)	13	4	17
University of Minnesota	13	1	14
University of California at Irving	39	2	41
UCLA	103	28	131
Univeristy of Hawaii at Manoa Library	11	6	17
UTexas Austin	87	12	99
University of Manitoba	58	9	67
The Ohio State University	21	42	63
University of Kansas Libraries	6	0	6
	554	119	673

## 7 施設の整備

## 7.1 資料保全環境の調査と改善

資料保全環境の改善を目的に、平成 17 年度末（平成 18 年 3 月）に続き、9 月に第 2 回の書庫環境調査を実施した。その結果、軽度ではあるが、文化財害虫の発生が確認された。これを受けて、長期的な書庫の清掃計画を策定中である。また、コレクション室への遮光カーテン取り付け、貴重書庫入口への網戸取り付け（換気の推進）等の環境改善を実施した。書庫 1 階については、製本雑誌の再配置とともに、資料と書架の清掃を完了した。

## 7.2 貴重図書室の整備と平賀文書の保管（柏図書館）

東京帝国大学第 13 代総長の平賀譲（1878～1943）は軍艦総長の異名を取り、戦前の日本海軍の軍艦建造を主導したことで知られている。平賀が収集した貴重な造船資料について、東大と呉市の大和ミュージアム（呉市海事歴史科学館）が共同で保存整理することになり、今年度はこれらの文書類をマイクロ撮影及びデジタル化する事業が進められ、「平賀譲デジタルアーカイブ」として Web 上で公開する準備が整った。

平賀文書は大正から昭和年間にわたる艦船の設計図面や試験報告書、研究論文、私信、写真など段ボール箱約 20 個分で、約 4 万 4 千点にわたるが、東大が遺族から寄贈（寄託）を受け、柏図書館で保管することになった。今年度は文書類の保存環境を整えるため、貴重図書室内に貴重図書用収納棚・図面ケース・マイクロフィルムキャビネットを設置し、平賀文書及び撮影されたマイクロフィルム等を保管している。

## 7.3 館内利用環境の保全、安全性の向上（総合図書館）

総合図書館における館内の利用環境の保全および安全性の向上のため、防犯カメラの増設を図った。本館で最小限度の監視が必要と思われる箇所に防犯カメラを設置するとともに、防犯カメラ運用方針を策定した。また、館内各所に「防犯カメラ設置」の掲示をすることにより周知の徹底を図った。

## 7.4 入館ゲート周辺の点字タイル張替（柏図書館）

産業医及びバリアフリー支援室から、入館ゲート周辺の点字タイルの配置が視覚障害者にとって分かりづらいとの指摘を受けたため、張替をして改善を図った。

## 7.5 閲覧室の環境整備（総合図書館）

汚れ、痛みが目立つ閲覧室のカーペットの張替えを行った。新しいカーペットは、部分的に張替え可能な不燃性のタイルカーペットとし、安全面、衛生面、美観の面で、より良い環境を維持しやすくなった。

## 8 スタッフ

## 8.1 職員研修プログラム

### (1) 附属図書館研修プロジェクト

( <http://www.lib.u-tokyo.ac.jp/koho/utlsd/project/project.html> )

東京大学附属図書館中期目標・中期計画（平成 15 年 2 月 21 日第 364 回図書行政商議会承認）では、図書職員の専門的資質を向上させるため、学術情報系の専門職としての研修制度をつくることが要請されている。

平成 16 年度に図書館業務連絡会議の下に設置された研修プロジェクトでは、「共働する一つのシステム」としての附属図書館における職務上必要な標準的知識の習得、業務を効率的に遂行するためのスキルを身につけた人材の効果的な育成等を目指し、18 年度も引き続き、それぞれのテーマごとに目的別研修を企画・実施した。

	研修名	日時	会場	出席者
経営 理論	オープンディスカッション 「日米大学図書館の現状」	4 月, 11 月の計 2 回	総合図書館	14 名
	図書館の話シリーズ 「図書館員の仕事」	1～3 月の計 3 回	駒場図書館 総合図書館 柏図書館	57 名
実践	手にとって学ぶ図書館の基礎 知識シリーズ「原本の取り扱い と保存」	10～12 月の計 3 回	史料編纂所 総合図書館	31 名
	図書館サービスの基盤シリー ズ 「目録エキスパート研修」	12 月の計 1 回	総合図書館	13 名
	図書館サービスの基盤シリー ズ 「電子ジャーナル利用サポ ート研修」	1 月の計 1 回	総合図書館	12 名

### (2) 研修プログラムでの新たな試み

プログラム内容については毎年見直しを行っているが、18 年度は以下のことを新たに試みた。

図書館の話シリーズでは、管理職（館長・事務部長）による大学図書館の経営に関する講演で構成する回を特に設け、大学図書館の使命や管理・運営について考えてもらう機会とした。

また、職員のコミュニケーション能力向上のため、従来の業務紹介のプレゼンテーションに加え、全ての回に参加者全員による意見交換の時間を設定した。

図書館サービスの基盤シリーズ「目録エキスパート研修（雑誌）」は、前年のアンケート結果等を踏まえ、雑誌業務部会により雑誌目録業務の基礎に重点を置いた内容にリニューアルされた。

情報リテラシー教育部会から、利用者サービス担当者に対しても電子ジャーナルについての研修が必要ではないかとの提案があり、図書館サービスの基盤シリーズの一つとして、新たに「電子ジャーナル利用サポート研修」が企画・実施された。

## 8.2 海外派遣

ハーバード大学イエンチン図書館との図書館員研修プログラムへ参加するため、平成 18 年 4 月から平成 19 年 3 月までの 1 年間、職員 1 名をアメリカ合衆国ボストンへ派遣し研修を実施した。

## 8.3 外国人研究員の受入

中国政府派遣研究員 1 名を平成 17 年 10 月から平成 18 年 9 月までの 1 年間、附属図書館長が受入研究者となり総合図書館において受入を実施した。

研究テーマ：図書館の管理，サービスのあり方研究

受入研究員：牛 麗 莉（中国青島大学師範学院図書館）

## 8.4 ジュニア T A の活用

平成 16 年度から東京大学の新たな制度としてスタートした「ジュニア・ティーチング・アシスタント」制度を活用し 3 年目を迎え、以下の活動を各図書館で実施した。

< 総合図書館 >

附属図書館ジュニア T A 予算により、24 名が合計 1,000 時間の活動を実施。

	概 要	業 務 内 容 ・ 活 動 の 状 況
1	6～10 月 8 名 459 時間	〔前期・後期グループ〕 書架整備・返本 図書装備 オープンキャンパスの手伝い（前期のみ） 図書資産の実査補助（前期のみ） 出版元情報の確認（後期のみ） 学習用図書の推薦（選定 1,735 冊，購入決定 1,045 冊） 意見交換
2	11～3 月 7 名 409 時間	いろいろな図書館業務を経験できるように設定したグループで、業務の締めくくりには意見交換を行い活動の感想や図書館への要望等を聞く機会とした。
3	1～2 月 5 名 30 時間	〔院生の選書グループ〕 学習用図書を選定するための大学院生のグループで、525 冊を選定し、そのうちの 336 冊を購入決定した。

4	1~2月 4名 102時間	〔マイクロフィルムの整理グループ〕 計 3,381 点, 278 リールの content 点検とマイクロフィルムリールのメンテナンスを終了。より多くの学生に参加してもらうため短期集中, 単一業務のグループとして設定した。(本年度新たに設定したグループ)
---	---------------------	--

< 駒場図書館 >

教養学部ジュニアTA予算により, 55名が合計2,140時間の活動を実施。

	概要	業務内容・活動の状況
1	7名 79時間	〔情報検索実習及び図書館ツアー補助〕 新入生対象の「基礎演習」の授業(参加38クラス・950名)で図書館ツアー・検索実習補助に従事。
2	8名 64時間	〔オープンキャンパス時の図書館案内〕 見学者767名, 館内ツアー参加者113名
3	5名 415時間	〔学習用図書の選定及び蔵書リニューアル〕 学習用図書選定と蔵書リニューアルを合わせ7,863冊のリストアップを行い, そのうちの2,251冊を購入決定した。
4	12名 530時間	〔書架の点検・配置及び蔵書点検補助〕 4,200冊を開架図書から保存書庫へ移動, 10.5万冊の蔵書点検を終了。
5	5名 415時間	〔書架移動及び雑誌のデータ調査〕 5階書架並べ替え作業と製本雑誌貸出準備作業を実施。(本年度新たに実施した業務)

< 柏図書館 >

新領域創成科学研究科ジュニアTA予算により活動を実施。

	概要	業務内容・活動の状況
1	10名 200時間	〔学習用図書の選定〕 2,317冊をリストアップし, そのうちの686冊を購入決定した。



付録 A-1 平成 18 年度図書館活動日誌

	イベント・活動内容
平成 18 年 4 月 1 日	東京大学学術機関リポジトリ (UT Repository) 公開
4 月 4 日	総合図書館 e-DDS サービス開始
4 月 6 日 ~ 24 日	総合図書館オリエンテーション
4 月 12 日	【研修プログラム】オープン・ディスカッション 第 1 回「日米大学図書館の現状」
4 月	『Guide to UT Libraries 2006』発行
5 月 22 日 ~ 6 月 30 日	常設展「草創期の東京大学と欧州の教師たち」
5 月	図書館グッズ作成
6 月 1 日 ~ 2 日	EDC (EU 資料センター / EU Documentation Center) セミナー
6 月 2 日	日・EU フレンドシップウィーク 2006 公開講演会「EU の拡大 教訓と課題」
6 月 23 日	「朝鮮王朝実録」内覧会
7 月 10 日 ~ 20 日	図書館業務システム講習会
8 月 1 日	本郷・オープンキャンパス
8 月 2 日	駒場・オープンキャンパス
8 月 ~ 10 月	図書資産の実査作業
9 月 4 日	MyLibrary サービス開始 (日本語版)
10 月 3 日	駒場図書館 e-DDS サービス開始
10 月 5 日 ~ 20 日	留学生向け秋季図書館ガイダンス
10 月 16 日	MyLibrary サービス開始 (英語版)
10 月 27 日 ~ 28 日	柏キャンパス一般公開
10 月 30 日	【研修プログラム】手にとって学ぶ図書館の基礎知識シリーズ 「原本の取り扱いと保存」第 1 回 洋書の保存と提供の考え方
11 月 1 日	総合図書館 e-DDS サービス拡大
11 月 1 日 ~ 30 日	附属図書館特別展示会 「知の職人たち：南葵文庫 (なんきぶんこ) に見る江戸のモノづくり」
11 月 7 日	附属図書館特別展示会「吉宗と東大：南葵文庫に見る知の職人たち」
11 月 27 日	【研修プログラム】手にとって学ぶ図書館の基礎知識シリーズ 「原本の取り扱いと保存」第 2 回 軸・卷子・和綴じ本の扱い方と保存
11 月 29 日	【研修プログラム】オープン・ディスカッション 第 2 回「日米大学図書館の現状」
12 月 4 日	柏図書館 DVD 貸出サービス開始
12 月 7 日 ~ 8 日	Training sessions for the EUi(ex-EDC)/DEP librarians (EU 関連資料に関する講習会) 開催
12 月 12 日	【研修プログラム】手にとって学ぶ図書館の基礎知識シリーズ 「原本の取り扱いと保存」第 3 回 フィルム・写真の扱い方と保存
12 月 14 日	【研修プログラム】図書館サービスの基盤シリーズ 「目録エキスパート研修 雑誌編 ~ 基礎からの脱却 ~」
平成 19 年 1 月 22 日	【研修プログラム】図書館の話シリーズ 「図書館員の仕事」第 1 回 図書館の "マネジメント" を考える
1 月 29 日	【研修プログラム】図書館サービスの基盤シリーズ 「電子ジャーナル利用サポート研修」
2 月 16 日	【研修プログラム】図書館の話シリーズ 「図書館員の仕事」第 2 回 駒場図書館編
3 月 1 日	常設展「(新制)東京大学総長著作展 (1) - 南原総長から向坊総長まで -」
3 月 8 日	【研修プログラム】図書館の話シリーズ 「図書館員の仕事」第 3 回 柏図書館編
3 月 28 日	全学資料購入集中処理システム説明会
3 月	『図書館利用ガイド 2007』 『Guide to UT Libraries 2007』発行

付録 A-2 平成 18 年度附属図書館会議開催一覧

開催日	会議名称
平成 18 年 4 月 25 日	図書行政商議会（第 378 回）
4 月 26 日	図書館業務連絡会議
5 月 17 日	附属図書館サービス特別委員会（平成 18 年度第 1 回）
6 月 6 日	図書館業務連絡会議
6 月 13 日	附属図書館運営委員会（平成 18 年度第 1 回）
6 月 21 日	附属図書館拡大サービス特別委員会（平成 18 年度第 1 回）
6 月 30 日	附属図書館拡大サービス特別委員会（平成 18 年度第 2 回）
7 月 4 日	駒場図書館運営委員会（第 7 回）
7 月 26 日	柏図書館運営委員会（平成 18 年度第 1 回）
7 月 28 日	図書行政商議会（第 379 回）
7 月 31 日	図書館業務連絡会議
8 月 1 日	学術情報電子化専門委員会（平成 18 年度第 1 回）
9 月 13 日	附属図書館運営委員会（平成 18 年度第 2 回）
9 月 21 日	附属図書館拡大サービス特別委員会（平成 18 年度第 3 回）
10 月 4 日	図書館業務連絡会議
10 月 30 日	学術情報電子化専門委員会（平成 18 年度第 2 回）
11 月 9 日	駒場図書館運営委員会（第 8 回）
	図書館業務連絡会議
11 月 10 日	附属図書館サービス特別委員会（平成 18 年度第 2 回）
11 月 24 日	附属図書館運営委員会（平成 18 年度第 3 回）
11 月 27 日	図書行政商議会（第 380 回）
12 月 12 日	図書館業務連絡会議
平成 19 年 1 月 25 日	総合図書館運営委員会（平成 18 年度）
1 月 29 日	附属図書館運営委員会（平成 18 年度第 4 回）
2 月 1 日	図書館業務連絡会議
2 月 6 日	附属図書館サービス特別委員会（平成 18 年度第 3 回）
2 月 19 日	附属図書館運営委員会（平成 18 年度第 5 回）
3 月 2 日	附属図書館サービス特別委員会（平成 18 年度第 4 回）
3 月 9 日	図書行政商議会（第 381 回）
3 月 12 日	柏図書館運営委員会（平成 18 年度第 2 回）
3 月 13 日	図書館業務連絡会議

付録 B-1.平成18年度東京大学附属図書館統計表

	職員数		蔵書数				資料費総額(千円)				受入資料数							相互利用(文献複写)			
	常勤(人)	非常勤(人)	図書		逐次刊行物		合計(種)	図書		逐次刊行物		合計(種)	図書		逐次刊行物		合計(種)	館外貸出(冊)	相互利用(件)	受付(件)	依頼(件)
			和書(冊)	洋書(冊)	合計(冊)	和文(種)		欧文(種)	和書(冊)	洋書(冊)	合計(冊)		和文(種)	欧文(種)	和書(冊)	洋書(冊)					
大学院法政学政学研究所・法学部研究室	13	6	237,034	456,975	694,009	1,488	1,988	3,476	138,655	3,353	5,321	8,674	5,417	768	1,231	1,999	1,462	0	349	153	
近代日本法政史料センター	3	1	55,645	799	56,444	7,205	0	7,205	2,996	321	0	321	2	0	0	0	0	0	305	0	
医学図書館	10	6	109,739	166,190	275,929	3,194	2,423	5,617	111,992	2,028	2,507	4,535	959	786	631	1,417	766	12,662	2,587	4,740	
工学・情報理工学図書館	14	15	153,193	259,770	412,963	3,059	3,422	6,481	190,852	2,164	3,628	5,792	3,701	1,176	916	2,092	1,414	20,623	462	537	
大学院人文社会系研究所・文学部図書室	8	14	463,306	511,239	974,545	6,304	3,998	10,302	129,397	11,007	8,384	19,391	9,816	855	1,057	1,912	1,384	18,971	762	879	
大学院理学系研究所・理学部図書室	7	9	37,368	189,717	227,085	2,265	4,332	6,597	102,919	1,064	2,310	3,374	1,681	637	1,278	1,915	627	9,204	482	406	
農学生命科学図書館	12	5	219,593	157,204	376,797	6,422	5,516	11,938	122,788	1,106	570	1,676	1,050	1,966	1,789	3,755	1,656	16,119	5,397	917	
経済学部図書館	12	11	427,321	307,239	734,560	7,108	4,826	11,934	70,700	9,007	3,522	12,529	3,681	688	475	1,163	550	36,579	361	204	
駒場図書館(総合文化研究所図書館・自然科学図書館を含む)	18	20	499,157	473,628	972,785	1,499	3,178	4,677	183,176	11,353	7,263	18,616	12,898	826	1,607	2,433	1,921	126,240	853	3,242	
アメリカ太平洋地域研究センター	3	2	5,897	61,355	67,252	230	500	730	6,460	162	995	1,157	446	53	151	204	63	3,788	0	0	
大学院教育学研究所・教育学部図書室	4	3	66,518	55,433	121,951	2,695	1,043	3,738	36,133	3,591	1,762	5,353	3,068	683	317	1,000	471	13,480	804	655	
薬学図書館	2	1	9,729	29,615	39,344	299	288	587	27,537	119	502	621	43	154	95	249	102	1,629	121	473	
大学院数理科学研究科図書室	3	3	11,707	115,818	127,525	150	1,320	1,470	69,455	332	2,253	2,585	1,187	34	515	549	347	8,263	355	107	
大学院情報学環・学際情報学府図書室	4	2	66,530	52,279	118,809	1,393	1,333	2,726	8,701	530	1,087	1,617	237	235	121	356	198	5,355	406	517	
社会情報研究資料センター			12,425	4,709	17,134	0	0	0	10,956	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
医科学研究所図書室	2	1	9,518	50,314	59,832	320	964	1,284	36,984	4	615	619	614	14	113	127	102	935	133	527	
地震研究所図書室	3	1	19,264	31,921	51,185	939	724	1,663	19,105	269	502	771	69	595	623	1,218	155	1,237	139	40	
東洋文化研究所図書室	6	5	479,885	169,231	649,116	3,033	3,749	6,782	47,056	6,328	3,512	9,840	6,022	461	902	1,363	671	211	222	64	
社会科学研究所図書室	9	1	191,658	132,275	323,933	4,929	2,750	7,679	36,676	3,215	1,715	4,930	3,818	910	392	1,302	658	11,559	319	96	
生産技術研究所図書室	3	0	62,254	99,617	161,871	982	1,294	2,276	40,168	211	695	906	834	449	391	840	328	824	154	526	
史料編纂所図書室	8	9	487,002	14,475	501,477	2,477	204	2,681	10,986	3,776	325	4,101	1,077	1,110	35	1,145	104	1	73	7	
宇宙線研究所図書室	0	1	835	20,399	21,234	21	214	235	26,615	22	499	521	521	14	62	76	70	113	24	4	
物性研究所図書室	2	1	5,336	55,232	60,568	100	623	723	53,376	462	923	1,385	1,332	43	106	149	133	2,456	54	32	
海洋研究所図書室	1	2	8,528	31,335	39,863	1,073	843	1,916	28,008	40	681	721	558	388	354	742	179	955	414	177	
情報基盤センター情報資料室	1	0	4,765	4,107	8,872	63	88	151	3,407	0	0	0	0	12	28	40	31	3	0	0	
総合研究博物館図書室	1	1	3,563	2,105	5,668	2,562	693	3,255	30	207	5	212	0	476	110	586	0	17	0	0	
アイントープ総合センター図書室	0	2	29	269	298	35	27	62	394	39	6	45	41	3	3	6	3	58	0	3	
先端科学技術研究センター図書室	1	2	15,903	30,344	46,247	65	389	454	5,322	184	187	371	76	15	3	18	12	634	56	894	
部局図書館(室)計	150	124	3,663,702	3,483,594	7,147,296	59,910	46,729	106,639	1,520,844	60,894	49,769	110,663	59,148	13,351	13,305	26,656	13,407	291,916	14,832	15,200	
総合図書館	44	11	764,200	435,289	1,199,489	11,979	14,164	26,143	98,034	15,434	2,552	17,986	8,141	3,139	707	3,846	307	132,601	1,014	79	
柏図書館	6	3	29,336	210,422	239,758	644	8,943	9,587	17,575	5,312	28,466	33,778	3,350	17	2	19	17	21,861	2,535	1,346	
総計	200	138	4,457,238	4,129,305	8,586,543	72,533	69,836	142,369	1,636,453	81,640	80,787	162,427	70,639	16,507	14,014	30,521	13,731	446,378	18,381	16,625	

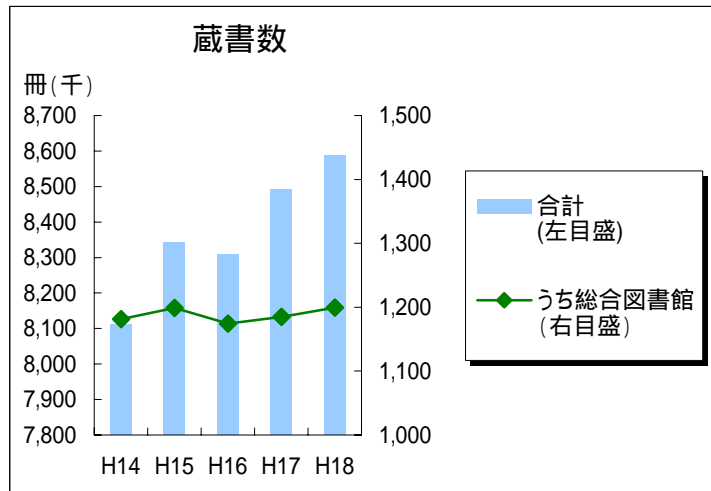
(社)日本図書館協会大学図書館調査より

付録B-2 附属図書館統計経年変化

蔵書数

	合計	うち総合図書館
平成14年度	8,112,335	1,181,237
平成15年度	8,342,880	1,198,973
平成16年度	8,309,685	1,174,461
平成17年度	8,492,910	1,184,919
平成18年度	8,586,543	1,199,489

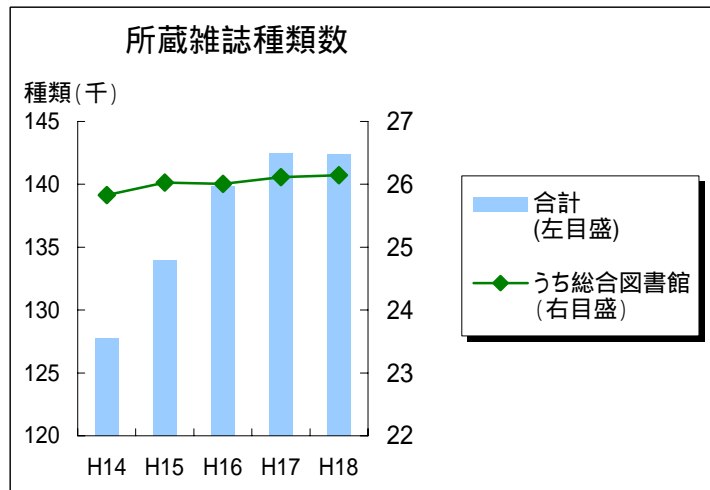
(単位;冊)



所蔵雑誌種類数

	合計	うち総合図書館
平成14年度	127,736	25,831
平成15年度	133,954	26,028
平成16年度	139,866	26,005
平成17年度	142,437	26,114
平成18年度	142,369	26,143

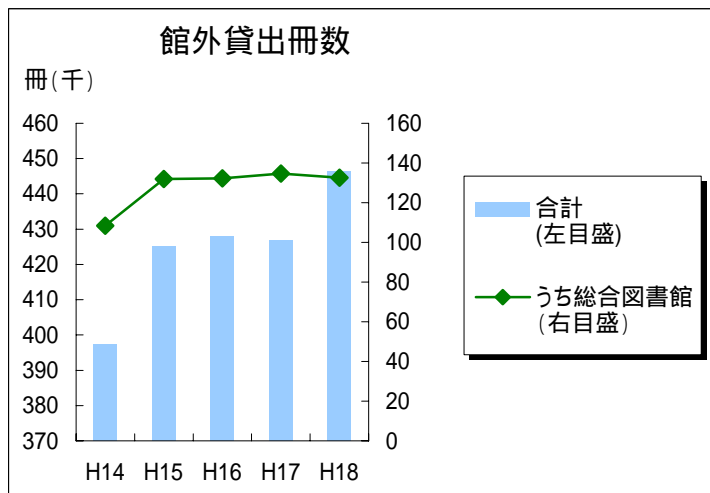
(単位;種類)



館外貸出冊数

	合計	うち総合図書館
平成14年度	397,259	108,421
平成15年度	425,158	131,998
平成16年度	425,683	132,321
平成17年度	416,958	134,736
平成18年度	446,378	132,601

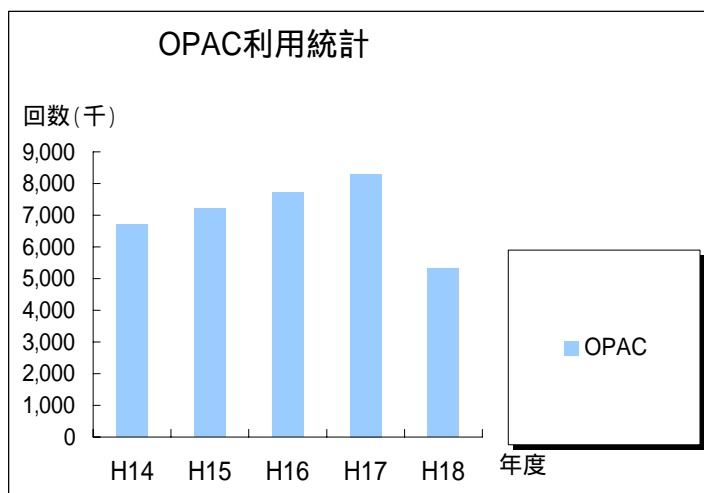
(単位;冊)



東京大学OPAC利用統計  
(検索実行回数)

	OPAC
平成14年度	6,702,414
平成15年度	7,202,191
平成16年度	7,711,914
平成17年度	8,298,354
平成18年度	5,310,055

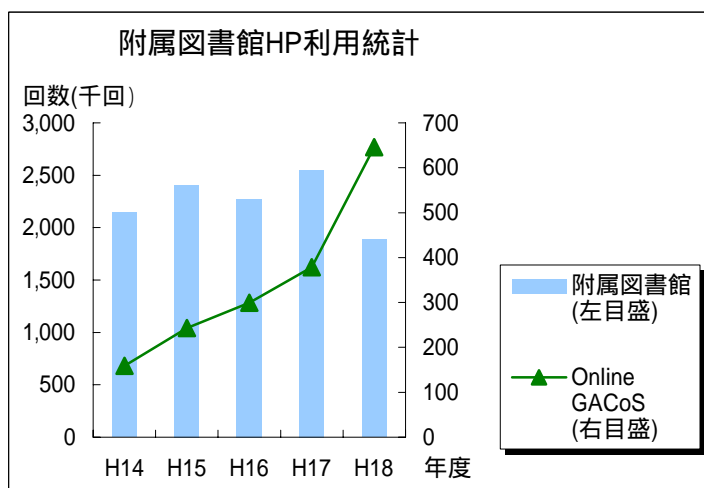
(単位;回)



附属図書館ホームページ利用統計  
(アクセス回数)

	附属図書館	Online GACoS*
平成14年度	2,145,861	159,031
平成15年度	2,406,235	242,786
平成16年度	2,271,602	299,636
平成17年度	2,550,610	378,740
平成18年度	1,885,212	645,842

(単位;回)



\* GACoS ; Gateway to Academic Contents System

入館者数(延人数)

	総合図書館	駒場図書館	柏図書館
平成14年度	810,356	523,514	-
平成15年度	812,608	657,926	-
平成16年度	805,096	685,965	5,931
平成17年度	786,634	590,620	13,878
平成18年度	795,208	662,831	24,382

